

溶岩の2大特徴 30種類のミネラル効果と持続する遠赤外線効果

2019年1月24日 整理:藤田

NPO法人 富士山溶岩研究所 HP:<http://www.fujisan-yogan-kenkyujo.or.jp/>

- ・水1ℓに溶岩マルモ1～2個(約50g)入れる。
- ・その水にミネラルがあると、溶岩まるものミネラルはイオン化しているので増加する。
- ・溶岩まるものミネラルそのものが溶け出すのではないので半永久的に使える。
- ・溶岩はそのままにして、減った分だけ水道水を足すだけでミネラルウォーターになる。
- ・水は24時間経過後から飲み始めると良い。
- ・溶岩の成分表を見ると30種類のミネラルが含まれている。
- ・鉄、亜鉛、鉛、モリブデン、カリウム、マグネシウム…等の効果が中心の説明。
- ・水にミネラルが増えるだけではなく、殺菌力で水の長期保存が出来る——備蓄水。
- ・お風呂に入れれば、肌からもミネラルが吸収される。
(温泉は、地下水がマグマの成分が溶け出したもので溶岩はマグマで出来ている)
- ・溶岩効果で、余分な皮脂が取れて肌がすべすべになり体も芯からポカポカになる。
- ・お風呂の雑菌やヌメリ、ニオイ等も殺菌力で消してくれる。善玉菌には影響しない。
- ・殺菌作用は、遠赤外線とミネラルのそれぞれの働きと相乗効果によって発揮される。
- ・遠赤外線は空間を伝わる(通り抜ける)放射によって皮下組織や脂肪に熱を伝える。
- ・放射熱が血管を拡張して血行が良くなり、脂肪が燃えて体が温まる。
- ・体温が上がると微細血管がさらに拡張し、全身の代謝が盛んになる。
- ・溶岩は熱を受けると、遠赤外線として放射する放射熱は90%以上なので他より優秀。
- ・溶岩からは太陽光のように遠赤外線と同時に紫外線は放射しない。遠赤外線のみ。
- ・溶岩プレート肉を焼くと、遠赤効果で内部から焼けていくので肉汁、旨味を逃がさない。
- ・溶岩は熱せられると強い放射熱を出す。常温だと程よい放射熱で内部から活性化する。
- ・溶岩の加工方法は★板状、◆小石状、●粉末状。

★溶岩プレート

★お風呂に入れる

★温めて温灸

◆水やお湯に入れる

◆炊飯や煮物に入れる

◆揚物油に入れる

●繊維にコーティング、練りこんだ布、

●石けんやシャンプー、保湿クリーム、入れ歯安定剤等

●紙、ゴム、プラスチックやペンキに混入

- ・溶岩をパウダー状にして飲むとより直接的に効能が期待出来る。飲む温泉と同じ。
- ・溶岩が体に残ることはなく排泄され、排便のニオイも半年程で無臭になる。